

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立津東高等学校)

1 めざす姿

(1)めざす学校の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」を育成する津東高校 ○ 「向学立志」の精神を大切にし、地域に信頼される津東高校
(2) 育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)【グラデュエーション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 以下に示す、未来を切り拓くための4つの力を身につけた津東高生 <ul style="list-style-type: none"> ① 対話力 ② 追究力 ③ 創造力 ④ 発信力 ○ 高い志を抱き、常に学ぼうと努力し続けられる津東高生 ○ 「笑顔」と「感謝」があふれる津東高生
ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」を身につけられるよう、生徒に「本気の伴走」ができる教職員 ○ 高い目標を持ち、生徒の学びのロールモデルとして学び続ける教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> 国公立大学をはじめとする四年制大学への進学を希望する生徒が多数であり、進路実現のための学力をつけられる授業を望んでいる。</p> <p><保護者> 国公立大学をはじめとする四年制大学へ進学させたいと希望する保護者が多数であり、子どもが希望する進路実現のための授業力、進路指導力を求めている。</p> <p><地域> 地域に貢献でき、豊かな人格と心を持つ生徒の育成、地域社会を担い、社会貢献する生徒の育成を期待している。</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者> 確かな学力と進路保障、豊かな情緒や人格形成をしてほしい。</p> <p><地域> 地域の活性化に寄与し、信頼される学校となってほしい。</p> <p><進路先(大学等)> 明確な目的意識と学力を育ててほしい。</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者> 家庭での学習環境整備と学校教育活動に理解や協力をしてほしい。</p> <p><地域> 学校教育活動に理解や協力をしてほしい。</p> <p><進路先(大学等)> 生徒の進路希望実現のための情報提供をしてほしい。</p>
(3)前年度の学校関係者評価など	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会に出たとき答えが一つでないことにどう対応するか。「自分で考える力」を養うことが重要。外部と協働することで教員にとっても発見があるのではないか。 ○ 地域を含めた外部の大人との関わりは大切。話を聞くだけでなく、コミュニケーションを取る機会をしっかりと作ってほしい。 ○ 校是「向学立志」を常に先生方が意識していることが大切。 ○ 探究活動をもっと発信した方がよい。 	

(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒は素直で真面目で、学校生活は落ち着いており、学習や学校行事、部活動等、熱心に取り組み、満足度も高い。ただ、学校以外の世界をイメージする機会が少ないため、社会との接続を意識した教育を実施していきたい。 ○ 生徒一人ひとりへのきめ細やかで懇切丁寧な指導により、学習への意欲も高まり、大学等への進学者数も安定している。学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を実現し、探究活動「自分らしくプロジェクト」を充実させることで、生徒の学びへの意欲と「自走性」をさらに向上させていきたい。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人ひとりへの指導と比較して、生徒全体の学力向上に資する取組や改善策等に関する組織的取組にやや課題がある。組織的な進路指導、キャリア教育を強化することで、「未来を切り拓く(4つの)力」を今以上に育てていきたい。 ○ 「社会に開かれた教育課程」を実現し、生徒の学ぶ意欲と志を今以上に育てるため、探究活動をより充実させる必要がある。そのために校内の組織の整備を進めながら、外部との連携を強化し、組織としてのコーディネート力、ファシリテーション能力を向上させていきたい。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日々のすべての教育活動を通して、自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」を育成し、生徒が3年間成長し続けることのできるキャリア教育の推進。 ○ 「社会に開かれた教育課程」を実現し、生徒の学ぶ意欲と志を育成するため、外部と連携した探究活動「自分らしくプロジェクト」の充実、発展。 ○ 「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、学力の三要素(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」)の資質・能力向上に役立つアクティブラーニング型授業の推進。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究活動「自分らしくプロジェクト」を充実、発展させ、答えが一つでない問いを考える機会を増やす。また、外部との連携を図り、組織としてのコーディネート力を強化する。 ○ 教職員研修を充実させ、授業改善をはじめとした教職員の資質向上に組織的に取り組み、学び続ける教職員集団を目指す。 ○ 教職員が、意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、各学年・分掌で情報共有を密にして、風通しのよい職場づくりを行う。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習や学校行事、部活動等に主体的、積極的に取り組む生徒 ○ 自分らしく社会に貢献しようとする夢と志を持つ生徒 ○ 自他を尊重し、思いやりをもち、協力して助け合う気持ちを持った生徒
---------------------------------	---

<p>キャリア選択の支援 (進路指導の充実)</p>	<p>○ 生徒に様々な機会・方法で情報や助言を提供することで、生徒自身のキャリア観の醸成を図り、生徒が自己選択、自己決定、納得のいくキャリア選択ができるように支援し、生徒・保護者とともに伴走する進路指導をめざす。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒対象 進路ガイダンス、進路講演会の実施 ・ 保護者対象 進路説明会の実施 ・ 年間行事予定に則り、計画的な行事の実施 ・ ICTツールやコンテンツの活用 ・ ベネッセマナビジョンやスタディサプリの活用促進 <p>○ 個人面談を充実させ、進路希望や学習状況を正確に把握し、的確かつ継続的な指導を行うことで、個別最適なキャリア選択を支援する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が納得のいく、自分らしいキャリア選択ができる進路指導の実施 ・ 探究活動を、社会参画につなげる支援 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スタディサポート「気持ち」指標の充実 ・ 多様な入試制度の活用 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒対象進路ガイダンス、進路講演会 1年3回実施 2年7回実施 3年7回実施 ・ 保護者対象進路説明会 1年2回実施 2年2回実施 3年1回実施 <p>・ 進路関係の行事は計画的に行えた。</p> <p>・ 民間の ICT ツールを活用することで個別最適な学習環境を整備できた。</p> <p>・ 個人面談は定例行事の4月と10月の面談および、科目選択登録、模擬試験の返却時などで行った。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の希望に応じた進路選択の提示およびガイダンスを行うことができた。 ・ 探究活動を活用して総合型選抜、学校推薦型選抜への出願指導を充実することができた。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「気持ち」指標で、5点以下の生徒の割合が減少した。 ・ 個に応じた進路実現のため、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜それぞれについて、ガイダンスや出願指導を充実することができた。 	<p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>
--------------------------------	--	--	-------------------------------------

<p>笑顔・感謝、人権感覚あふれる学校づくり(生活指導の充実)</p>	<p>○ 生徒の基本的な生活習慣の確立を促し、安全・安心な、笑顔で通える学校づくりを行う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員による登校指導 毎日実施 ・ 生徒会役員による挨拶運動 <p>○ いじめや差別を許さず、一人ひとりの個性の違いを認め、互いに尊重することができる仲間づくりを進めるとともに、望ましい集団や社会の実現に向けて行動しようとする意欲を育む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ防止の啓発活動 年2回以上(4月・11月…いじめ防止強化月間) ・ 各学年、HRでの人権学習や人権に関する学習の実施 年2回以上 <p>○ 生徒会をリーダーとして、生徒主体で学校行事を作るよう努力する。生徒と教職員がともに考え、安全で安心な行事やルールを創り出すよう努力する。</p> <p>○ 生徒が主体的に活動できる環境を整え、生徒を尊重した部活動を行う。</p>	<p>○年間を通して PTA 役員の方とも協力し(月1回)、全職員で毎朝の登校指導を行ない、しっかりと顔を合わせて挨拶ができる生徒が増えてきた。また、遅刻をした生徒に対しては生活指導部で声掛けを行なった。</p> <p>○いじめ防止の取り組みとして生徒会と協力してピンクシャツ運動を実施した。また、全校集会や学年集会において講話を行なうとともに、クラスでも「いじめを許さない」学習や指導を行なった。</p> <p>○本年度は、生徒会を中心とした生徒主体の行事づくりが進み、安全で安心な運営体制が概ね確立された。また、生徒が主体的に活動できる環境整備が進み、生徒を尊重した部活動運営も概ね達成できた。</p>	<p>◎</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>※</p>
<p>安全・安心、環境整備(保健管理の充実)</p>	<p>○ 命を尊び、自らの健康に関心を持ち、主体的に健康な生活を送ることができる生徒を育てる。</p> <p>○ 自分たちでより良い環境を作ることの理解の上に、掃除を主体的に取り組めるよう支援する。</p> <p>○ 暑さ指数(WGBT)に基づいた対応を行い、学校教育活動における熱中症事故防止に努める。</p> <p>○ スクールカウンセラーを始めとする外部機関との連携を密にし、生徒の支援、心身の適切なケアを充実させる。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談係との連携 年20回以上 <p>○ ICTを活用した家庭との連携を強化し、情報提供等の活用を促進する。</p>	<p>○保健室の来室が昨年度の半分以下になったことから見ても、自己管理ができる生徒が増えてきた。</p> <p>○掃除全般は納得のいくものであったが、トイレの使い方に、もう少し周りのことを考えて使用してほしい部分があった。</p> <p>○WGBTは守れていた。しかし個人の体調がすぐれなかったのか、一人救急車を呼んだことがあった。</p> <p>○スクールカウンセラーには、年に36回来てもらっている。</p> <p>○健康観察の方法で、ICTを使ったので、長期欠席者や欠席の把握がしやすくなった。</p>	<p>◎</p> <p>※</p>
<p>改善課題</p>			
<p>(年度末に記載)</p>			

情報提供による信頼の構築	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校説明会の実施 【活動指標】 ・ 中学校等に出向き、学校概要の説明 年10回以上 ○ 授業公開、学校見学会の実施 【活動指標】 ・ 年間2回以上 ○ ホームページによる情報提供 【活動指標】 ・ ホームページの更新 月平均4回以上 ○ きずなネットによる情報発信 	【活動指標】 ・学校説明会(中学校等) 10回 ・授業公開、学校見学会 2回 ・図書部、人権教育係より月1回の更新をしたが、学校全体としては、十分な更新とは言えない状況であった。	◎ ※ ※ ※
働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総勤務時間の縮減に向け、休暇を取得しやすい環境を作る。 【活動指標】 ・ 設定した日の定時に退校できた教職員の割合(定時退校日 月1日) 80%以上 ・ 予定通り休養日を実施できた部活動の割合(週1日) 95%以上 ・ 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 75%以上 【成果指標】 ・ 時間外労働時間が年360時間を超える教職員数 0人 ・ 時間外労働時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 ・ 1人当たりの月平均時間外労働時間 30時間以下 ・ 1人当たりの年間休暇取得日数 12日以上 ○ 学校行事や休日・長期休業中の取組の精選を進める。 	【活動指標】 ・ 設定した日の定時に退校できた教職員の割合 99.5% ・ 予定通り休養日を実施できた部活動の割合 99.5% ・ 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 76.9% 【成果指標】 ・時間外労働時間が月45時間を超える教職員 94人 ・1人当たりの月平均時間外労働時間 26.4時間 ・1人当たりの年間休暇取得日数 11日 【12月時点】	◎ ※ ※ ※ ※
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIへの対応。レポートを全て生成 AI に任せている事例が大学では見受けられる。使い方指導など情報教育を充実させ取組が必要になってくる。 ・「自分らしくプロジェクト」や「自分学部」はとても興味深い取組である。外への発信を強化する必要がある。 ・高校生が小学校へ出向いて、出前授業をするなどの取組があるととても良い。④
----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)